

図書案内

2023年 12月号

心躍るイベント

師走 12月がやってきました。12月と聞くと皆さんは何を思い浮かべますか？雪や年越し、大掃除に冬休み…たくさんの方が思い浮かぶのではないのでしょうか。そして、その中でも欠かせないのはやっぱり「クリスマス」！今回は12月のビッグイベントであるクリスマスにちなんで「心躍るイベント」についての本を紹介します。ぜひ図書室に立ち寄って読んでみてください！

『おたのしみ歳時記』 / 杉浦さやか



「頑張りすぎずに楽しむ」をモットーに、毎月のカレンダーとともに日々の小さな幸せや12か月の行事、旬をかわいいイラストで紹介。人気イラストレーターがスケッチする折々の暮らし。野の花でカジュアル生け花、梅シロップづくり、雨の日のおしゃれおうちビアガーデン、まんまるお月見会、小さな模様替え、簡単クリスマスリース作り…凝ったことはできないけれど、ちょっとした工夫で張り切りすぎずに四季を楽しみたい。何でもない日常を少し彩るアイデア満載のほっこり手記です！

仕事や日常に追われる日々だけど、時々立ち止まって、季節の手作りや味を味わいたい。



『クリスマス・トレイン』

デイヴィッド・バルダッチ / 著 武者圭子 / 訳

広大なアメリカの土地を走る寝台列車、キャピトル・リミテッド号。この列車からトムの旅は始まります。トムが列車で出会うのは個性豊かな人ばかり。弁護士、結婚を控えたカップル、占い師、映画監督などたくさんの人が乗車しています。しかもその中には以前付き合っていた女性であるエレノアまで乗っていたのです。気まずい雰囲気だったトムとエレノアですが、一緒に列車でおこる出来事を経験するうちに少しずつ二人の関係は変化していきます。12月のアメリカを舞台に繰り広げられるラブストーリーをぜひ読んでみてください。

「クリスマスには、サンタクロースを信じるのもいいもんさ。願いはいつかかなうものなんだ、願いつづければね」



『太陽の塔』 / 森見登美彦

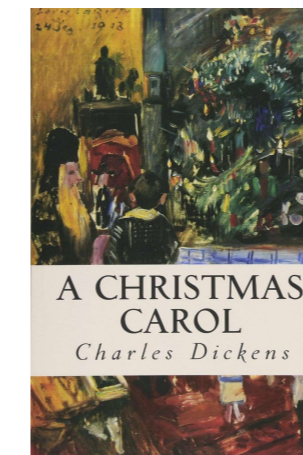


クリスマス直前に振られた大学五年生の主人公と、クリスマスを呪う友人たちの物語。本書を一言でいうと大笑いしたいときに読みたい本です。登場人物たちが揃いも揃って自意識過剰、コンプレックスをこじらせながらも気高く生きているため、どこか勇気もらえるんです。彼らは恋人たちと過ごす“リア充”たちを羨み、クリスマス・イブの夜に「ええじゃないか」騒動を起こすのですが、その騒動は想定外の展開を迎えます。

「幸福が有限の資材だとすれば、君の不幸は余剰をひとつ産みだした。その分は勿論俺が頂く。」



『A Christmas Carol』 / Charles Dickens



「クリスマス・キャロル」、それは皆さんが一度は聞いたことのあるお話でしょう。会社を経営するスクルージはとんでもなくケチで意地悪なひねくれ者。クリスマスの日だということに楽しむ人たちを軽蔑して馬鹿馬鹿しいと思っています。そんな彼が三人の精霊に出会い…というあらすじです。そして、その「クリスマス・キャロル」の原作の英文を英語学習者用に平易な英語で編集し直したのがこの本です。ここで英語の本なんて読むのが大変だと思っているあなた、安心してください。出てくる単語の9割は中学校で習っていますし、皆さんのホームリーダーより短くて、高校文法なんて知らなかったって読めます。英語だからこそ伝わるこの心温まるお話をぜひ読んでみませんか。

That is what all of us want, and so, Tiny Tim said, “God bless us, every one!”



どうして冬至にゆず湯に入るの？

日本では、古くから冬至の日に「ゆず湯」に入ると「1年中風邪を引かない」という言い伝えがあります。

ではなぜ、冬至に柚子湯に入る習慣はいつから始まったのか知っていますか？ゆず湯に入る習慣は、銭湯ができた江戸時代から始まったと言われています。ゆず＝【ゆうずう（融通）がきく】、冬至＝【湯治】という語呂合わせから、柚子湯が流行ったと言われています。なので、冬至の日に柚子湯に入るのは、実は「融通良く行きましょう」という意味だったのです。また、柚子湯には疲労回復や美肌効果もあり、寒い冬を越すには柚子がピッタリなのです。皆さんもこれからの季節、ぜひ柚子湯を楽しんでみてください！

(参考 https://www.u-kochi.ac.jp/~health/hitikotomemo/story_yuzu.html)